

研究発表会

自ら学び、共に学び合う児童の育成

本日の指導案



2年：スーホの白い馬



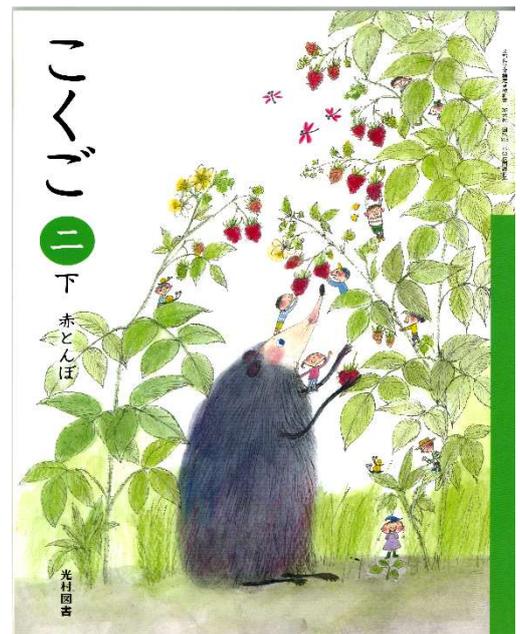
3年：分数を使った
大きさの表し方を調べよう



5年：私たちの生活と環境

	学年・組	授業者	単元名
公開授業	2年2組	水島弘貴	スーホの白い馬
	3年2組	赤荻正之	分数を使った大きさの表し方を調べよう
	5年2組	大槻梨奈	私たちの生活と環境

公開授業 国語



2年2組 水島 弘貴 教諭
「スーホの白い馬」

第2学年2組 国語科学習指導案

令和4年1月20日（木）第2校時 教室
在籍児童数 男子15名 女子12名 計27名
指導者 教諭 水島 弘貴

1 単元名 読んで、かんじたことをつたえ合おう 「スーホの白い馬」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

学習アンケートの結果から、「勉強が好き」と感じている児童の割合は93%、「授業が楽しい」と感じている児童の割合は93%であった。本学級の児童は、学習に意欲的な児童が多く、友達と自然な形で相談する姿が多く見られるが、自分の意見を伝えるばかりで友達の意見を聴く姿勢に課題が見られる児童もいる。

国語科の学習では、物語を読んだり聞いたりすることが好きな児童が多い。「ふきのとう」の学習では、本文の叙述から、それぞれの登場人物の気持ちを考え、音読に生かしていた。「スイミー」の学習では、話型を使って、友達の考えと自分の考えを比べて聴くことで、本文の叙述を基にして出来事や場面の様子を想像する力を深め、スイミーの行動や気持ちを考えて、あらすじをまとめる力を身に付けていた。「お手紙」の学習では、話型を提示しなくても、自然な形で相談できる人間関係をつくり、本文の叙述や挿絵を基にして、登場人物の行動の理由を考える力を身に付けていた。「わたしはおねえさん」の学習では、物語を読んで理解した内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ力を身に付けていた。

「仲間と関わり合い、学び合いながら進んで課題を解決する学級のすがた段階表」で学級の段階を考察すると、「自然な形で相談する姿が見られるようになる」「何もしない児童に対して声がけをする姿が見られるようになった」ことから、本学級は第2段階であると考えられる。積極的に聴き合うペアや自分から進んで相談する姿を価値付けるような声掛けを行い、第3段階を目指す。

(2) 教材観

国語科の学習指導要領解説における、思考力、判断力、表現力等 C読むこと (1)カの「文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。」を主たる目標とする。

本教材は、モンゴルの広い草原を舞台とし、モンゴルに昔から伝わる馬頭琴にまつわる由来話で、動物と人間の強く温かな絆が描かれ、悲しくも美しい印象を残す物語である。この物語は、中心人物であるスーホにだけ着目しているのでは捉えきれず、人物同士の関係性の中で心情を理解する読み方を学ぶのに適した教材といえる。

(3) 指導観

本単元において、音読、黙読、教材文に微音読しながら考えを書き込む活動などの教材と対話しながら思考する活動を「教材との対話」と定義し、言葉による見方・考え方を働かせた学びを「真正の学び」と捉える。

「教材との対話」を「じっくり読み」として授業の中に設定し、十分な時間をとる。友達と考えを共有する活動と教材との対話を繰り返し行いながらで物語を読んでいく。また、教師が児童の考えをつないだり想像を広げられるような発問（ジャンプの問い）をしたりすることで、物語の内容をより深く想像して読めるようにする。授業のまとめに2分音読タイム「アンコール読み」を設定し、自分が「一番考えた」「心が動かされた」と思った部分を選んで音読する。これらの活動を通して、いろいろな考え方があることに気付かせる。場面の様子に着目して登場人物の行動を想像しながら読み、感じたことや気付いたことを共有する中で、互いの考えを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりすることで自分の考えを広げ、深められるようにしていく。

単元を貫く言語活動を単元のめあてとして設定し、お気に入りの世界の昔話や民話を紹介するリーフレットを作成し、「世界の昔話ライブラリー」として図書室に展示する。「スーホの白い馬」で作成、共有したリーフレットと同様の物を自分の選んだ世界の昔話や民話でも作成し、感想を共有する。文章を読んで考えたことや感じたことを共有する力を養うとともに、友達の思いや考えを受容できるようにする。

3 研究主題との関わり

研究主題

自ら学び、共に学び合う児童の育成

〈仮説1〉

興味や関心をもって解決したくなる課題を設定することができれば、全員が進んで課題に向かうことができるであろう。

〈手立て〉

①児童が意欲的に取り組める学習過程の設定

単元を貫く言語活動として、お気に入りの世界の昔話や民話を紹介するリーフレットを作成し、「世界の昔話ライブラリー」として図書室に展示する。単元の導入で図書館司書から本を紹介してもらい、紹介の仕方やリーフレットの書き方を知り、学習の見通しをもつことができるようにする。見通しをもち学習したことを活かし探求する学習過程により児童は意欲を高め、全員が進んで課題に向かうことができるようになると思う。

②教材分析シートを活用した課題や発問の工夫

教材文・児童の思考の流れや予想される発言を事前に分析し、教材分析シートを作成する。児童の言葉から作成した課題を基に児童同士の発言をつなぎながら、より深い考えを引き出す発問(ジャンプの問い)をする。児童の実態や思考の流れに合わせた課題や発問により、全員が進んで課題に向かうことができるようになると思う。

〈仮説2〉

互いの考えを認め合う授業を展開することができれば、多様な考えに気づき、自己の考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

〈手立て〉

①本文の書き込みを介して考えを伝え合う工夫

本文に書き込む視点を全体で共有し、視点に合わせて書き込んだことについてペアで尋ね合う活動を行う。活動を通して、自分の考えを明確にして話したり、友達の考えと比べて聞いたりすることで多様な考えに気づき、自己の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

②教材との対話と共有を繰り返し行う学習展開の工夫

「教材との対話」で考えたことをペアや全体で共有し、教師が児童のつぶやきや疑問・発言を取り上げて全体に問い返すことで、自分では思いつかなかった考えについて自分事として考えるために「教材との対話」に戻るような学習展開を設定する。友達の考えと本文とのつながりを確認し、友達の考えに対する理解を深める学習展開を通して、多様な考えを受容し、自己の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

③ワークシートを活用した考えの共有

毎時間ワークシートに同じ視点(心に残ったところとその理由)で感想を書く。ワークシートの内容を前時の振り返りとして紹介したり、掲示したりして共有することで、同じ場面を読んでもいろいろな感じ方や考え方があることに気づき、自己の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

6 単元の目標

- (1) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(〔思考力・判断力・表現力等〕(1)カ)
- (2) 身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(〔知識及び技能〕(1)オ)
- (3) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(〔思考力・判断力・表現力等〕(1)エ)
- (4) 言葉のもつよさに気付くとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしていや考えを伝え合おうとする。(「学びに向かう力、人間性等」)

7 単元で取り上げる言語活動

世界の昔話や民話を読んで心が動かされたところを紹介し合う。

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (〔知識及び技能〕(1)オ)	①「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 (〔思考力・判断力・表現力等〕(1)カ) ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (〔思考力・判断力・表現力等〕(1)エ)	①進んで、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を文章にまとめようとしている。 (「学びに向かう力、人間性等」)

9 指導と評価の計画(全15時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○日本や世界にはいろいろな昔話や民話があることを紹介し、単元のめあてを設定し、学習の見通しをもつ。	○学習の見通し ○リーフレットの書き方	○図書館司書に昔話を読んでもらい、リーフレットを紹介する。 ○同じお話を読んで、似ていたり違ったりする友達の感じ方に関心をもつと共に、交流する目的をもつ。
単元のめあて 「お話を読み、心にのこったところをつたえ合おう」 — せかいのむかし話ライブラリーをつくろう —			
2 3	○扉のリード文や挿絵からモンゴルやそこでの暮らしの様子について想像させる。 ○全文を音読し、物語のあらすじを捉える。 ○初発の感想をもつ。	○物語の内容	○これまでの学習を活かして、文と絵を対応させながら、登場人物と出来事について内容の大体をおさえるようにする。 ○視点を明確にして感想をもたせ、初発の感想を用いて課題を作成する。

4 5 6 7	○登場人物の行動や会話、出来事を捉え、想像したことを話し合う。	○叙述を基に想像しながら読むこと	○単元のためを確認しながら、毎時間ワークシートに感想(心に残ったところとその理由)を記述する。 【思考・判断・表現②】 <u>教科書の書き込み・ワークシート</u> ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しているか確認する。 【知識・技能①】 <u>ワークシート</u> ・様子や行動、気持ちを表す語句を使って感想を書いているか確認する。
8 9	○リーフレットを書き、感想交流会で紹介し合う。	○感想の書き方 ○他者の考えのよさを受容すること	○リーフレットを使いながら、感想の交流会を行い、互いの感想を共有する。 【思考・判断・表現①】 <u>振り返りの記述・発言</u> ・互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしているか確認する。 【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>リーフレット・振り返りの記述・発言</u> ・進んで、感想を文章にまとめて、感想を共有する中でいろいろな感じ方や考え方があることに気付き、認めようとしているか確認する。
10	○世界の昔話や民話から、お気に入りの物語を選び、あらすじを捉える。	○物語の内容	○図書室と連携しながら、様々な地域の物語を用意する。 ○選んだ物語の舞台である国をタブレットを使って調べる。
11 12	○選んだお話の登場人物の行動や会話、出来事を捉え、想像したことを話し合う。	○叙述を基に想像しながら読むこと	○同じ物語を選んだ児童でペアを組み、想像したことを話し合う。

			<p>○単元のためを確認しながら、ワークシートに感想（心に残ったところとその理由）を記述する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【思考・判断・表現②】 教科書の書き込み・ワークシート</p> <p>・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しているか確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能①】 ワークシート</p> <p>・様子や行動、気持ちを表す語句を使って感想を書いているか確認する。</p> </div>
13 14	○選んだ物語のリーフレットを書き、感想交流会で紹介し合う。		<p>○リーフレットを使いながら、感想の交流会を行い、互いの感想を共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 振り返りの記述・発言</p> <p>・互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしているか確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 リーフレット・振り返りの記述・発言</p> <p>・進んで、感想を文章にまとめて、感想を共有する中でいろいろな感じ方や考え方があることに気づき、認めようとしているか確認する。</p> </div>
15	○単元のまとめを行う。	○単元のまとめ ○これまでの学習の振り返り	○これまでの学習でどのような力がついたのかを確かめる。
事後	○リーフレットを図書室に展示し、本の紹介を見てもらう。		○興味が出た本は借りて読むことができるようにする。

10 本時の学習と指導（7／15時）

（1）本時の目標

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕（1）エ

（2）評価規準

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。【思考・判断・表現】

(3) 展開

	学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価 (○留意点 ☆研究仮説との関わり)
導入	1 前時の学習を振り返る。	○前時の振り返り	○前時のワークシートの記述を振り返りながら、単元を貫く言語活動と本時の活動を確認する。
	2 4場面を音読し、出来事を確認する。	○視点をもった音読の仕方	○前時からのつながりを意識し、4場面の出来事確かめながら音読できるように声掛けをする。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> どうして馬頭琴は、広いモンゴルの草原中に広まったのだろう。 </div>		
	3 4場面を微音読しながら登場人物の行動を具体的に想像する。	○教材との対話(じっくり読み) ○叙述を基に想像しながら読むこと ○視点をもった書き込みの仕方 ○考えの共有	○本時で考えていきたいことを出し合い、児童の言葉から具体的な課題を設定する。 ○4場面の出来事と登場人物の行動や会話を確かめながら繰り返し読んだり、想像した登場人物の気持ちや様子、行動の理由を教科書に微音読しながら書き込んだりしていくことで、自分の考えを明確にできるようにする。 ○手が止まっている児童に、ペアの友達の考えを尋ねるように声掛けをし、聴いた考えを自分の考えに活かせるようにする。 ○ペアや全体で考えを共有する時間と教材との対話を繰り返し行い、想像を膨らませられるようにする。 ○これまでの場面を想起しながらスーホと白馬のつながりを考えている児童の意見を取り上げ、共有できるようにする。 ☆本文の書き込みを介して考えを伝え合う工夫〈仮説2〉 ☆教材との対話と共有を繰り返す学習展開の工夫〈仮説2〉
	4 <u>どうしてスーホのわきに白馬がいるような気がする</u> と、 <u>楽器の音はますます美しく響き、聴く人の心を揺り動かす</u> の <u>だろう</u> 。 【ジャンプの問い】	○教材との対話(じっくり読み) ○叙述を基に想像しながら読むこと ○考えの共有	○児童の言葉をつないだり切り返したりしながら発問(ジャンプの問い)をし、より深い考えを引き出していく。 ☆教材分析シートを活用した発問の工夫(随時)〈仮説1〉
	5 学習をまとめる。	○学習のまとめ	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> スーホのひく馬頭琴の音色が、きく人の心をゆりうごかしたから。 </div>		
		○児童の言葉から課題に正対した具体的なまとめを作るようにする。	

	<p>6 心が動かされた部分を音読する。(アンコール読み)</p> <p>7 ワークシートに心が動かされた部分とその理由を書く。</p>	<p>○想像したことを基に音読すること</p> <p>○学習内容の整理</p>	<p>○想像した様子や登場人物の気持ちを音読で表現するために、始めの音読との違いを意識して音読するように声掛けをする。</p> <p>○教科書の書き込みとアンコール読みを基に心が動かされた部分とその理由を明確にした上で記述することができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価場面</p> <p>【思考・判断・表現②】</p> <p><評価方法></p> <p>教科書の書き込み、発言、ワークシート</p> <p>・馬頭琴を作ったスーホの様子に着目して、スーホや白馬の行動を具体的に想像している児童をBとする。</p> <p>〈「努力を要する」状況（C）への手立て〉</p> <p>ペアの児童の言ったことや、全体での話合いの中で取り上げた言葉に注目させ、自分の考えに近い友達の考えから想像を広げられるようにする。</p> </div>
<p>まとめ</p>	<p>8 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○振り返りの視点</p>	<p>○友達の考えで納得したことや、考えが深まったことを中心に振り返る。</p>

(4) 板書計画

㊦

スーホのひく馬頭琴の音色が、きく人の心をゆりうごかしたから

- ・白馬をころされたくやしさを、白馬にのって草原を駆け回った楽しさを思い出す。
- ・白馬への思いが音色を美しくする。
- ・白馬との思い出がよみがえってくる。

挿絵

㊧

スーホのわきに白馬がいるような気がする、楽きの音はますます美しくひびき、聞く人の心をゆりうごかす。

スーホは、どこへ行くときも、馬頭琴をもっていた。

- ・いつも白馬といっしょにいたい。

←

スーホは、白馬のゆめを見た。
白馬は、体をすりよせ、やさしくスーホに話しかけた。
『いつまでもあなたのそばにいられますから』

- ・スーホに元気になってほしい。
- ・スーホといっしょにいたい。
- ・心はいつもつながっている。

馬頭琴ができあがった。

スーホの白い馬 四

①スーホはどんな人物か（P108～P112 6行目）

スーホの人物像を深く考えさせる。

○前半の叙述から捉える スーホはどんな人物？

- ・モンゴルの草原に住む
- ・貧しい羊飼いの少年
- ・年とったおばあさんと二人暮らし
- ・よく働く
- ・歌がうまい

○ある日、小さな白い馬を連れて帰ってくる。

どうしてスーホは小さな白い馬を連れて帰ってきたのだろう。

- ・心配→もがいていた、一人でした
- ・あぶない→オオカミにおそわれるかもしれない

☆ スーホはどんな人？

- ・優しい人→心をこめてせわした
- ・動物思いな人

☆ 小さな白い馬はスーホのことを、どう思っているだろう。

- ・命の恩人、助けてくれた人

②オオカミが襲ってきた（P112 7行目～P113 10行目）

スーホと白馬の関係がより深い、家族のような存在になっていくことに気付かせる。

スーホは何の音で目を覚ました？スーホはゆっくり外に出た？急いで外に出た？

- ・けたたましい馬の鳴き声→ただ事じゃない
- ・ひつじのさわぎ→生活していくうえで大事な羊のピンチ
- ・はねおきる、とびだし、かけつける→焦っている
- ・若い白馬→成長が見える

○羊をオオカミから守る白馬

- ・オオカミが襲ってきた→羊を食べるため

ずいぶん長い間、オオカミと戦っていたのはどの文からわかる？

- ・立ちふさがって、必死にふせいでいた
- ・体中あせびっしょりだった、あせまみれ→必死に守っていた

☆ どうして白馬は、ひっしにオオカミとたたかったのだろう。

- ・スーホのため、命の恩人のため、大切な人のため→前場面「心をこめてせわした」

☆ スーホは白馬に対してどんな気持ちだろう。

- ・「本当にありがとう」→大切な羊を守ってくれた
- ・もし白馬が守ってくれなかったら大変だった。→羊は生活に欠かせない
- ・「どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」
→命がけで大切なものを守ってくれた白馬に特別な思いをもった。飼い主と馬の関係を越えて、兄弟のようになった。→「兄弟に言うように話しかけました。」

③とのさまに白馬を取り上げられた（P113 11行目～P117 5行目）

殿様の人柄や行動と比較させることで、スーホの心情をより深く考えさせる。

- ・ある年の春（前時から時間がたっている）

この期間スーホと白馬はどのようにすごしていたか想像してみよう。

- ・楽しくすごした
- ・兄弟のように仲良くすごした
- ・二人で羊飼いの仕事をしていて
- ・このあたりをおさめているとのさま→えらい、支配している
- ・競馬→馬の足の速さを競う競技

勝ったらどうなる？→殿様の娘と結婚させる（王子になる？）→勝ちたい！
 →どうして勝ちたい？→お金持ちになれるから（貧しい羊飼いだから）

○殿様の人柄

とのさまはどんな人？

- ・自分勝手な人→「むすめの～知らんぷりをして」『お前には～さっさと帰れ』
- ・いばっている→「『つれてまいれ』とのさまはさげびました。」
 『おまえ』『くれてやる』『さっさと帰れ』
- ・いじわるな人→「まずしいみなりのひつじかい」を見て態度を変えたから
- ・乱暴な人→スーホが反対したら、暴力をするように命令したから
 無理やり白馬を取り上げたから

とのさまは白馬のことをどう思っている？

- ・足が速くて綺麗な馬→ほしい、自分のものにして見せびらかしたい

☆ どうしてスーホは、とのさまに向かってかっとなって、言いかえたのだろう。

- ・大切な白馬を銀貨三枚で置いて帰れと言われて腹が立ったから
 →スーホにとって白馬は兄弟、共に仕事をして生活する仲間、家族のような存在

☆ 白馬をとられたかなしみがどうしてもきえないのはなぜだろう。

- ・白馬が心配→体の傷が治っても悲しみが消えないことからずっと考えていると思う
 →白馬はどうしているかな、元気にしているかな、無事かな
- ・白馬と一緒にいたい→ずっと一緒だったから、兄弟・家族のような大切な存在だから
 いなくて寂しい、あきらめられない
- ・スーホは優しい→離れていてもずっと心配しているから

④白馬が逃げて、戻ってくる（P117 6行目～P121 3行目）

必死に逃げてきた白馬と、瀕死の白馬に会ったスーホの行動や言動からそれぞれの心情を深く考えさせる。

- ・殿様「～見せびらかしたくてたまりません。」→自慢したい
 →スーホとは白馬への気持ちが違う

○逃げ出す白馬

どうして白馬は逃げ出したのだろう？

- ・殿様のところにはいたくないから
- ・スーホのところに戻りたいから

矢は一本だけ刺さったのか。それとも何本も刺さったのか。

- ・何本も→「つぎつぎに」「その体には、矢が何本もつきささり～」

矢は深く刺さったか、それとも浅く刺さったか。傷はひどいのか、軽いのか。

- ・深く刺さったと思う、ひどい傷だった
 →「矢が何本もつきささり、あせが、たきのようにながれおちています。」
 「白馬は、ひどい傷をうけながら～」
 「スーホは、歯を食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬきました。」
 「きず口からは、血がふきだしました。」
 死んでしまうような傷だったから、ひどい傷だと思う。

☆ どうして白馬は、矢がささっているのに、スーホのところへ帰ってこられたのだろう。

白馬は休みながら帰ってきたのだろうか？

- 休んでない→「ひどいきずをうけながら、走って、走って、走りつづけて、～」

どうして白馬は、ひどい傷をうけながら、しかも、休まずにかえってこられたのだろうか？

- スーホにどうしても会いたかったから
- 兄弟、家族のようなスーホのところに帰りたかったから
- 痛くても休まずに帰ってくるくらい、強い気持ちだったんだと思う

○スーホの心情

☆白馬が帰ってきた後のスーホはどんな気持ちだろう。

- 帰ってきてくれてうれしい
- 白馬がかわいそう→「スーホは、歯をくいしばって、～」
- かなしい→『白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。』
→大切な白馬が死んでしまいそうで、かなしいと思う
- くやしい→死んでしまった

⑤馬頭琴を作る（P121 4行目～P122 8行目）

夢を見たスーホが馬頭琴を作るという行動からスーホの心情を深く考えさせる。

スーホは何がかなしくてくやしかったのだろうか？

- 白馬が死んでしまったこと
- 白馬を助けられなかったこと
- 殿様への憎しみ

○夢に出てきた白馬

白馬はどんな気持ちで夢に出てきたのだろうか？

- スーホに元気になってほしい
- スーホと一緒に居たい→『いつまでもあなたのそばにいられますから』

☆どうしてスーホは、ゆめからさめると、すぐ、馬頭琴を作りはじめたのだろうか。

- 馬頭琴を作ればこれからも白馬と一緒にいれると思ったから
→「スーホは、どこへ行くときも、～」
- 死んでしまったけれどまだ一緒に居たい→「～むちゅうで組み立てていきました。」
- また白馬に会えると思ったから
- 馬頭琴があれば、心はずっとつながっていられると思ったから
→「スーホは、自分のすぐわきに白馬がいるような気がしました。」

☆どうしてスーホのわきに白馬がいるような気がすると、楽器の音はますます美しく響き、聴く人の心を揺り動かすのだろうか。

- 白馬をそばに感じ、白馬と過ごした思い出がよみがえってくるから→各場面の思い出
⇒楽しかった思い出（明るい思い出）と悲しい思い出や悔しい思い出（暗い思い出）が入り混じりっているからこそ、聴く人の心を揺り動かすことに気付かせたい。
→その音色に魅了され、馬頭琴は広いモンゴル中に広まった。

☆どうして馬頭琴は広いモンゴルの草原中に広まったのだろうか

- スーホの弾く馬頭琴の音色が、聞く人の心を揺り動かしたから。

黒板

①A・S	<u>③H・Y</u>	⑨K・D	<u>⑪S・A</u>	⑳S・T	<u>㉒G・S</u>
<u>②T・S</u>	④S・S	<u>⑩I・A</u>	⑫O・H	<u>㉑S・A</u>	㉓O・A
⑤T・K	<u>⑦K・Y</u>	⑬U・S	<u>⑭A・T</u>	㉔T・R	㉕Y・H
<u>⑥N・R</u>	⑧S・U	<u>⑮O・M</u>	⑯H・S	<u>㉖T・H</u>	㉗S・I
		⑰S・I	<u>⑱O・M</u>	⑲K・R	

下線は女子

公開授業 算数



3年2組 赤荻 正之 教諭

「分数を使った大きさの
表し方を調べよう」

第3学年2組算数科学習指導案

令和4年1月25日（火）第5校時 教室
在籍児童数 男子22名 女子16名 計38名
指導者 教諭 赤荻正之

1 単元名 分数を使った大きさの表し方を調べよう

2 教材について

本単元は、学習指導要領第3学年「A数と計算」の「(6)ア(ア)等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。(イ)分数が単位分子の幾つ分かで表すことができることを知ること。(ウ)簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。イ(ア)数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。」に基づくものである。

第2学年では、 $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{3}$ などの簡単な分数についての素地的な学習を行っている。また、第3学年では、80cmの $\frac{1}{4}$ の長さが除法で求めることができるなどの分数と除法の関係や、分数と同様に端数部分を表すことのできる小数を学習してきた。本単元では、分数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、分数についても整数と同様に加法及び減法ができることを知ること。さらに、単位分数の大きさに着目し、分数でも数を比べたり計算したりできるかどうかを考えたり、計算の意味や仕方を考えたりするとともに、分数を日常生活に生かそうとする態度や能力を高めることをねらいとしている。

3 児童の実態

本学級の児童は、学習アンケートの結果から「勉強が好き」と感じている児童は84%、「授業が楽しい」と感じている児童は92%であった。また、「友達の考えを聞くことができる」「自分から自分の考えを友達に話すことができる」という項目を肯定的に回答している児童は共に84%であり、16%の児童は自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いたりすることができていないと感じていることが分かる。

算数科の学習においては課題に進んで取り組む児童が多い。問題の解き方や考え方が分からない児童は、隣の児童のノートを覗き込む様子も見られる。また、手が止まっている児童がいると声を掛けて解き方を説明することができる児童もいる。相談時間を設けると多くのペアが相談をすることができているが、中には近くの児童に相談できずそのまま声をかけられることを待っている児童や、自分の課題が終わった後はそのまま何もせず待っている児童も見られる。手が止まっている児童に対してケアや声掛けをすることはできているが、自分の考えをもっている場合は、相談をする際、それぞれの意見を伝え合うだけで終わってしまい、考えを認め深め合う段階まで到達していない様子も見られる。

「仲間と関わり合い、学びながら進んで課題を解決する学級のすがた段階表」で学級の段階を考察すると「ちょっとした相談時間で、多くのペアが相談することができる。」「何もしない児童に対して、ケアや声かけが出てくる。」ことから、2段階であると考え。今後は、相手の考えを認め、自己の考えを広げたり深めたりできるようにするために双方向の対話を促していく。

4 教師の指導観

本単元での「真正の学び」とは、「分数の意味や数の仕組みに着目し、分数を用いた数の表し方やその計算方法、小数との関係について考えること」と捉える。真正の学びを通して、分数の意味や表し方、計算の仕方な

ど理解できるようにする。そのために、児童が学習活動に興味や関心をもてるような、実生活と結び付きのある問題を設定していく。

分数の加法及び減法の計算では、自分の考えや相手の考えを伝え合う時間を多く設定し、既習事項を生かして解決をしていく。それぞれの考えを伝え合うことで一つの解決方法だけではなく、様々な解決方法があることに気付かせる。そして、それらの解決方法から共通点は何かを考えさせていくことで、分数の加法及び減法の計算方法について理解を深めていく。

考えを伝え合う際、学び合いの活動を活性化できるように、児童の考えを相手に伝えられるように話を教師がつかげたり、学び合いが停滞しているペアやグループに対して支援をしたりしていく。そして、聴き合う関係の質を高め、探究的に学び合いながら学習課題を解決できるようにする。

5 研究主題との関わり

研究主題

自ら学び、共に学び合う児童の育成

〈仮説1〉

興味や関心をもって解決したくなる課題を設定することができれば、全員が進んで課題に向かうことができるであろう。

〈手立て〉

①児童の生活経験や既習事項に即した課題の設定

児童が課題に興味や関心をもてるように児童にとって身近に感じる問題を設定する。本単元では、実生活と結び付きのある問題を設定したり、既習事項と問題の関わりを意識させたりすることで、児童全員が必要感や見通しをもって進んで課題に向かえるようにしていく。

〈仮説2〉

互いの考えを認め合う授業を展開することができれば、多様な考えに気づき、自己の考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

〈手立て〉

①児童同士が認め合うことができる雰囲気をつくる教師の支援

児童同士が互いの考え方を認め合えるように、ペアやグループの学び合いの活動を支援する。課題を解決する時間では、自分の考えを相手に伝えられるよう教師が話し合いにつなげていく。また、学び合いが停滞しているペアやグループに対しては、教師が停滞している原因は何かを問うことで、学び合いを活性化するための支援をする。学び合いにより、課題を解決したり、探究的に学ぶことができたりしたペアやグループを積極的に称賛し、モデリングしていくことで、自分の考えを相手に伝えることや相手の考えを自然と聴くことができる雰囲気を醸成する。児童同士が認め合い、考えを伝え合う中で、多様な考えに気づき、自己の考えを広げたり深めたりできるようにしていく。

6 単元の目標

分数の意味や分数を用いた大きさの表し方を理解し、分数の加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して分数での端数部分の表し方や小数との関係を考える力を養い、分数の仕組みを用いて考えた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いること、また、その表し方を知っている。</p> <p>②分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知っている。</p> <p>③分数の加法及び減法の意味について理解し、計算することができる。</p>	<p>①数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えている。</p> <p>②分数について、日常生活の場面に応じて考えている。</p>	<p>①分数を用いることで、整数で表せない等分してできる部分の大きさや端数の大きさや端数部分の大きさを表せるようになることを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。</p>

8 指導と評価の計画（11時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<p>1m を 3 等分した 1 こ分の大きさを分数で $\frac{1}{3}m$ と表すことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さの表し方を考える。 1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さを 1m の「三分の一」といい、「$\frac{1}{3}m$」と書くことを知る。 $\frac{1}{3}m$ は、その 3 こ分で 1m になる長さであることを確認する。 	<p>・知①（行動観察・ノート分析）</p>		<p>・態①（行動観察・ノート分析）</p>
2	<p>分数を用いた長さの表し方について、単位分数のいくつ分かを基に考え、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1m のテープを 3 等分した 2 こ分の長さの表し方を考える。 その長さを 1m の「三分の二」といい、「$\frac{2}{3}m$」と書くことを知る。 	<p>・知②（行動観察・ノート分析）</p>	<p>・思①（行動観察・ノート分析）</p>	
3	<p>「分数」「分母」「分子」の意味を知り、液量についても長さと同様に端数部分の大きさを分数での表し方を考え、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1L を 5 等分した 2 こ分のかさの表し方を考える。 1L を 4 等分した 1 こ分、6 等分した 4 こ分のかさの表し方を考える。 「分数」「分母」「分子」の意味を知る。 	<p>・知②（行動観察・ノート分析）</p>	<p>・思②（行動観察・ノート分析）</p>	
4	<p>分数を数直線に表し、分数の大きさの比較や 1m を n 等分したものの n こ分は 1m になることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数直線を用いて、$\frac{4}{5}m$ と $\frac{3}{5}m$ の長さの比較を行う。 $\frac{4}{5}m$ と $\frac{3}{5}m$ の長さを比べ、違いは 1 目盛り何こ分かを考える。 		<p>・思①（行動観察・ノート分析）</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{5}{5}m$ は 1m と同じ大きさであることを確認する。 ・1m を 6 等分した数直線から長さをそれぞれ求める。 			
5	<p>単位分数の何こ分という表し方を基に、1 よりも大きい分数の表し方を考え、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{1}{5}m$ の 6 こ分、7 こ分、…の長さは何 m か考える。 ・$\frac{10}{5}m$ は 2m と同じ大きさであることを確認する。 	・知②(行動観察・ノート分析)	・思①(行動観察・ノート分析)	
6	<p>$\frac{3}{4}m$ と、基準量の$\frac{3}{4}$の違いについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を見て、色を塗った部分の長さが 2m のいくつ分の長さなのかを考える。 ・1m を何等分しているかに着目し、図の色を塗った部分の長さを分数で表す。 ・$\frac{3}{4}m$ とは、もとの長さ 1m の$\frac{3}{4}$の長さであることを確認する。 	・知①(行動観察・ノート分析)	○思②(行動観察・ノート分析)	
7	<p>分母が 10 の分数と$\frac{1}{10}$の位までの小数の関係について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{1}{10}$を単位とした数直線を基に分数の大きさや、分数と小数の関係について考え、$\frac{1}{10}=0.1$ であることを理解する。 ・小数第一位を「$\frac{1}{10}$の位」ともいうことを知る。 	・知①(行動観察・ノート分析)		
⑧ 本時 ・ 9	<p>分数の表し方と仕組みに着目し、同分母の分数の加法及び減法の計算方法を考え、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数 ($\frac{3}{10}$と$\frac{2}{10}$) について、加法が用いることができるか考える。 ・小数の加法の計算と同様に、$\frac{1}{10}$の何こ分で考えればよいことをまとめる。 ・分数 ($\frac{4}{5}$と$\frac{2}{5}$) について、減法が用いることができるか考える。 ・前時の学習を生かして、$\frac{1}{5}$の何こ分で考えれば整数と同じように計算できることをまとめる。 		○思①(行動観察・ノート分析)	
		・知③(行動観察・ノート分析)		
10	<p>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめよう」に取り組む。 ・「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	・知①②③(行動観察・ノート分析)		○態①(行動観察・ノート分析)
11	<p>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストを通して学習内容を振り返る。 	○知①②③(ペーパーテスト)		

9 本時の学習と指導（8／11時）

（1）本時の目標

分数の表し方と仕組みに着目し、同分母の分数の加法の計算方法を考え、説明できる。

【思考力、判断力、表現力等】

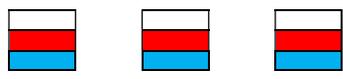
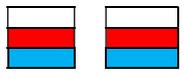
（2）展開

	学習活動	教師の発問（◎） 予想される児童の反応（・）	評価規準（◇）支援（⇒） 指導上の留意点（○） 研究主題との関わり（☆）
導入 6分	<p>1 問題を知る。</p> <p>カルピスを作るためにげんえきを$\frac{3}{10}$L、水を$\frac{2}{10}$L用意しました。合わせて何Lのカルピスになるでしょうか。</p>	<p>・式は$\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$だ。</p> <p>◎分数ってたし算ができるのでしょうか。</p> <p>・小数でもたし算ができたから。</p>	<p>○問題と同じものを実際に用意し、イメージしやすいようにする。</p> <p>○たし算をすることが可能か児童に問いかける。</p> <p>○実際に実物を合わせることで分数同士でもたし算をすることができることを視覚的に確認する。</p>
展開 34分	<p>2 本時の課題をつかむ。</p> <p>$\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$の計算の仕方を考えよう。</p>	<p>・$3 + 2$で計算をする。</p> <p>・コップの図を描いて$\frac{3}{10}$と$\frac{2}{10}$を合わせる。</p> <p>・$\frac{3}{10}$は0.3と$\frac{2}{10}$は0.2と同じで合わせると0.5になるから$\frac{5}{10}$になる。</p> <p>・$\frac{\textcircled{3}}{10} + \frac{\textcircled{2}}{10} = \frac{\textcircled{5}}{10}$</p> <p>・$\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$は$\frac{1}{10}$をもとにして$3 + 2$して$\frac{5}{10}$になる。</p> <p>・$\frac{3}{10}$は$\frac{1}{10}$が3個分。$\frac{2}{10}$は$\frac{1}{10}$が2個分。合わせて$\frac{1}{10}$が5個分だから$\frac{5}{10}$になる。</p>	<p>☆児童同士が認め合うことができる雰囲気をつくる教師の支援 〈仮説2①〉 自分の考えを相手に伝えられるよう教師が話し合いにつなげていく。 学び合いが停滞しているペアやグループに対しては、教師が停滞している原因は何か問うことで、学び合いを活性化するための支援をし、学び合いを活性化させていく。</p> <p>⇒図をかいて問題文を整理するよう声掛けをする。図をかくことも難しい場合は、コップを10等分した図をかくように声掛けをする。</p>
	<p>4 全体で話し合う。</p>	<p>◎みんなの考えで似ているところはどこでしょうか。</p> <p>・たし算をしている。</p> <p>・全部$3 + 2$になっている。</p>	<p>○様々な考え方の共通点を問うことで、それぞれ$3 + 2$の計算をしていることを話し合いで気付かせる。</p>

5 まとめる。	<p>◎どうして $3 + 2$ で計算しているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 こと 2 こだから。 ・ $\frac{1}{10}$ が 3 こと 2 こだから。 ・ $\frac{1}{10}$ をもとにしているから。 	<p>◇分数の表し方と仕組みに着目し、同分母の分数の加法の計算方法を考え、説明することができる。【思・判・表】(行動観察・ノート分析)</p> <p>⇒計算方法を考えることができない児童に対しては小数の学習や大きい数のかけ算の学習を振り返り、○をもとにして考える方法を思い出させる。</p> <p>○児童の言葉で本時の学習をまとめる。</p>
$\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$ は $\frac{1}{10}$ をもとにして、 $3 + 2$ の計算で考えることができる。		
6 本時の課題を活用した問題に取り組み、計算の仕方を考える。(ジャンプの問い)	<p>げんえき $\frac{1}{5}$L と水 $\frac{2}{5}$L をあわせてカルピスを作りました。しかし、思っていたよりもこい味になってしまったので、さらに 2 dL の水を入れました。</p> <p>全部で何 L のカルピスができたでしょうか。</p>	<p>☆児童の生活経験や既習事項に即した課題の設定〈仮説 1 ①〉</p> <p>児童にとって身近なカルピス作りの問題を設定し、生活経験に結び付けて課題を捉えることで児童が興味や関心をもてるようにする。</p> <p>前半の計算は $\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$ となるため、本時の問題だった $\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$ の計算の仕方を活用することができる。</p> <p>後半の 2 dL は、dL が 1 L を 10 等分している単位だということに気付くと、$\frac{2}{10}$L と置き換えることができる。</p> <p>$\frac{3}{5}$ と $\frac{2}{10}$ では計算することができないため、どちらかの分母に合わせる必要がある。図を用いることで、それぞれの分母に対応する大きさの表し方があることに気付くことができる。</p> <p>$\frac{1}{5}$ をもとにすれば整数で計算ができること、2 dL は $\frac{2}{10}$L と表すことができること、一方の分母に合わせた大きさに置き換えることなどを他者と関わり合いながら気付くことができるようにする。</p>
7 全体で話し合う。	<p>◎分からないところはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算の仕方が分からない。 ・ 分数と整数で計算できない。 ・ 分母が違って計算できない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前半は $\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$ になる。 ・ $\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ をもとにすると $1 + 2$ で計算ができる。 ・ $\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$ は $\frac{3}{5}$ になる。 ・ 2 dL は $\frac{2}{10}$L になる。 ・ $\frac{3}{5}$ は $\frac{6}{10}$ と同じ大きさだから $\frac{6}{10} + \frac{2}{10}$ で計算できる。 ($\frac{2}{10}$ は $\frac{1}{5}$ と同じ大きさだから $\frac{3}{5} + \frac{1}{5}$ で計算できる。) ・ $\frac{6}{10} + \frac{2}{10} = \frac{8}{10}$ で答えは $\frac{8}{10}$L になる。($\frac{3}{5} + \frac{1}{5} = \frac{4}{5}$ で答えは $\frac{4}{5}$L になる。) 		

			⇒手が止まっている児童に対しては、他の児童に相談するよう声をかけたり、どうして計算ができないのか問いかけたりする。
整理 5分	8 本時のふりかえりをする。	◎今日の学習で身についたことや、もっと知りたいことを振り返りましょう。 ・分数でもたし算ができる。 ・分数も $\frac{1}{10}$ や $\frac{1}{5}$ をもとにすると整数で計算ができる。	○本時の学習過程にそった振り返りをするために、今日の課題を確認したり、今日の授業で分かったことを考えたりするよう助言する。

(3) 板書計画

<p>カルピスを作るためにげんえきを$\frac{3}{10}$L、水を$\frac{2}{10}$L用意しました。合わせて何Lのカルピスになるでしょうか。</p>	<p>$\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$の計算の仕方を考えよう。</p>	<p>$\frac{3}{10} + \frac{2}{10}$は$\frac{1}{10}$をもとにして、$3 + 2$の計算で考えることができる。</p>
<p>式</p> $\frac{3}{10} + \frac{2}{10} = \frac{5}{10}$ <p style="text-align: center;">答え $\frac{5}{10}$L</p>	<p>【児童の考え】</p> <p>$\frac{3}{10}$は0.3と$\frac{2}{10}$は0.2と同じで合わせると0.5になるから$\frac{5}{10}$になる。</p> $\frac{3}{10} + \frac{2}{10} \rightarrow \frac{5}{10}$  <p>全部$3 + 2$をしている。</p> <p>$\frac{1}{10}$をもとにすると$3 + 2$で計算できる。</p>	<p>げんえき$\frac{1}{5}$Lと水$\frac{2}{5}$Lをあわせてカルピスを作りました。しかし、思っていたよりもこい味になってしまったので、さらに2dLの水を入れました。</p> <p>全部で何Lのカルピスができたでしょうか。</p>
		<p>【児童の考え】</p> <p>2dLは$\frac{2}{10}$L</p> $\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{5}$ $\frac{3}{5} + \frac{2}{10} \rightarrow \frac{3}{5} + \frac{1}{5}$ <p>$\frac{1}{5}$をもとにすると</p> $1 + 2 = 3$  <p>$\frac{3}{5} + \frac{1}{5} = \frac{4}{5}$ 答え$\frac{4}{5}$L</p>

黒板

①S・Y	③H・C
②T・T	④K・A

⑨H・S	⑪K・T
⑩K・Y	⑫S・K

⑰T・H	⑱F・M
⑱T・K	⑳T・M

⑤T・Y	⑦T・S
⑥S・Y	⑧D・N

⑬N・H	⑮S・H
⑭M・A	⑯S・S

⑳S・K	㉓R・S
㉒Y・M	㉔R・S

⑵O・Y	⑶T・H	⑶M・S	⑶K・Y	⑶U・H	⑶I・R	⑶T・Y	
⑶M・A	⑶O・A	⑶H・T		⑶F・M	⑶U・H	⑶W・Y	⑶N・R

下線は女子

公開授業 社会



5年2組 大槻 梨奈 教諭
「私たちの生活と環境」

第5学年2組社会科学習指導案

令和4年1月25日（火）第5校時 教室
在籍児童数 男子15名 女子19名 計34名
指導者 教諭 大槻 梨奈

1 小単元名 自然災害を防ぐ

2 小単元について

(1) 教材について

本小単元は、学習指導要領の内容（5）ア（ア）（エ）、イ（ア）に基づき、我が国の国土の自然と国民生活との関連について学習する。ア（ア）では、自然災害は国土の自然状況などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにする。ア（エ）では、地図帳や衛星写真などの資料で自然災害の発生位置を調べたり、統計、写真や映像、年表などの資料で自然災害への対策や事業を調べたりして、文などにまとめる技能を身に付けるようにする。イ（ア）では、社会的事象の見方・考え方（本単元における真正の学び）を働かせ、国土の自然状況について、これまでに我が国においてどのような自然災害が発生したのか、自然災害による被害をどのように減らす対策をとっているのかなどの問いを設けて調べたり自然災害と国土の自然条件を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現できるようにする。

本教材では、日本はこれまでに様々な自然災害が発生し、世界的にも自然災害が発生しやすい国土であり、これからも自然災害が発生する可能性があることに着目し、国民生活を守るために自然災害を学ぶ必要があるという意識を高め学習を展開する。実際に発生した自然災害の写真や映像などの資料を活用することで自然災害の被害の大きさを実感し、自然災害による被害を少しでも減らすために課題を追究したいという課題意識をもたせるようにする。自然災害が発生する要因と被害を減らすための国や都道府県の取組を関連付けて理解させることで、本小単元のねらいである国土の地理的環境の理解をできるようにする。

(2) 児童の実態

2学期実施の学習アンケートの結果から、「社会は好き」と答えた児童は53%、「社会の授業は楽しい」と答えた児童は84%、「友達の考えを聞くことができている。」と答えた児童が90%、「授業の中で、友達に教えてもらったり、話し合ったりしてわかったことや新しい考えが浮かんだことがある。」と答えた児童が88%であった。

「仲間と関わり合い、学び合いながら進んで課題を解決する学級のすがた段階表」から考察すると、「自分たちで進んで相談し合うことができる。」「隣の児童のノートなどを覗き込んだり写したりする児童が出てくる。」ことから第3段階であると考えられる。

これまでの社会の学習では、学習問題を自分たちの問い（疑問）からつくる活動、課題を追究するために資料から必要な情報を読み取る活動を経験してきた。一方、社会的事象を調べることに留まり、調べて分かった社会的事象を比較、分類、統合することで課題を解決することを苦手と感じている児童が多い。

(3) 教師の指導観

本単元では、真正の学びを「社会的事象を位置や空間的な広がりに着目（視点）して捉え地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて（方法）考える学び」と捉える。具体的には「自然災害を位置や空間的な広がりで見え（視点）、自然災害の原因と国土の自然条件

を結び付けたり、国や県の減災の取組と関連付けて（方法）考えたりする」ことである。特に単元を通して、時間的、空間的、相互関係的な視点で社会的事象について考える活動に重点を置き児童が自ら課題（問い）を見出し、学習に主体的に取り組めるようにする。

そのために、「つかむ」段階では、空間的な視点から自然災害には発生条件があることに気付くとともに、時間的な視点から公助としての国や都道府県における対策や事業に気付くことができるようにする。自然条件と国や都道府県の対策や事業の視点から児童が自ら問いを設定できるようにする。

「調べる」段階では、各災害における被害の大きさに気づき、災害発生の自然条件を知る。その後、自然条件に合わせた国や都道府県などの様々な対策や事業について調べるという学習過程で学習を進める。複数の資料を関連付けながら調べることを通して、根拠を明確にして理解を深めたり、新たな疑問をもちながら探究的に学んだりすることができるようにする。

「まとめる・いかす」段階では、それぞれの災害と国や県の対策や事業を整理する。そのうえで社会の一員として自分がどのように防災や減災の対策に関わっていくか児童一人一人に選択・判断をする活動を設定する。

さらに、単元全体を通して学習問題の設定と学習課題に対する振り返りにおいて、教師が学び合いによる課題解決のモデリングやその価値の共有をすることで、児童が協同的に問題を解決した達成感を感じ、学び合いの質を高める意欲をもって学習進められるようにする。

3 研究主題との関わり

研究主題

自ら学び、共に学び合う児童の育成

〈仮説1〉

興味や関心をもって解決したくなる課題を設定することができれば、全員が進んで課題に向かうことができるであろう。

〈手立て〉

学習問題とストーリー性のある単元構成の工夫

第1時では、児童の問い（疑問）を基に学習問題と学習計画を設定する。これまでに発生した自然災害を災害の種類と位置の視点（空間的視点）で整理し、「自然災害はどのようにして発生するのだろうか。（自然条件による要因）」といった問いと「国や県は自然災害から国民生活を守るためにどのような取組をしているのだろうか。（対策や事業）」といった問いを引き出し学習問題と学習計画を設定する。第2時から第5時では毎時間の導入とまとめで学習問題と学習計画を確認し、単元全体の見通しをもちながら学習課題を追究できるようにする。学習問題を解決するために、毎時間の学習課題を追究するという学習過程を設定することで、児童が学習に目的意識をもち、全員が進んで課題に向かうことができると考える。

〈仮説2〉

互いの考えを認め合う授業を展開することができれば、多様な考えに気づき、自己の考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

〈手立て〉

個の学びを保障する学習過程と教師のケアの工夫

児童の探究を①「課題の把握」②「個人の追究Ⅰ」③「協同的な追究」④「個人の追究Ⅱ」の4つの段階に分けて、児童一人一人の学びの様子を見取り、必要に応じてケアをする。「個人の追究Ⅰ・Ⅱ」で自己の考

えを広げたり深めたりすることができるよう、①「課題の把握」と③「協同的な追究」を中心にケアをする。①「課題の把握」の段階では、追究すべき課題が把握できず活動が止まっている児童を中心にケアをすることで、学習内容を把握し、まずは自分の力で課題を追究しようとするようにする。③「協同的な追究」の段階では、学び合いが停滞しているグループや他の児童と関わり合えていない児童を中心にケアをすることで、課題解決に向けて他者の考えを認めながら自分の考えをもつことができるようにする。学びが停滞している児童を中心に素早くケアし、ペアやグループとの関わりを引き出すことで、他の児童の考えを受け入れたり認めたりすることができるように考える。学び合いを活性化することで多様な考えに気づき、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように考える。

4 小単元の目標と評価規準

(1) 目標

我が国の国土の自然環境と国民生活について、災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の自然災害の状況をとらえ、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ②調べたことを文などにまとめ、自然災害は国土の自然状況などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見だし、国土の自然災害の状況について考え表現している。 ②自然災害と国土の自然条件との関連を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

5 小単元の指導計画・評価計画（5時間扱い）

「学習活動・学習内容」の○数字は時間を表す。

	○学習活動 ・学習内容	★研究仮説との関わり 【評価の観点】 内容 〈方法〉	資料等
つかむ	<p>①日本で起きた自然災害を調べ、日本で起こる自然災害とそれに対する防災の取組について学習問題をつくり、予想をもち、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の種類 ・自然災害の発生位置や時期 ・防災対策 	<p>★学習問題とストーリー性のある単元構成の工夫 【仮説1】</p> <p>【思・判・表①】</p> <p>災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見だし、国土の自然災害の状況について考え表現している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p> <p>【態①】</p> <p>我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害の写真 ・災害年表 ・災害地図 ・日本の地形図 ・災害被害統計資料
調べる	<p>②日本で起きた地震に関する資料をもとに、地震が起きるわけや地震の被害を減らすためにどのような取組が行われているのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震による被害 ・日本と世界の地震の発生位置 ・地震が起きるわけ ・国や都道府県の防災の取組 	<p>★学習問題とストーリー性のある単元構成の工夫 【仮説1】</p> <p>★個の学びを保障する学習過程と教師のケアの工夫 【仮説2】</p> <p>【知・技①】</p> <p>災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震災害写真 ・災害年表 ・日本の地震分布 ・世界の地震分布 ・日本の地形図 ・大地震に関する新聞記事
	<p>③東日本大震災時の津波に関する資料をもとに、津波が起きるわけや津波の被害を減らすためにどのような取組が行われているのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波による被害 ・津波の発生位置や時期 ・津波が起きるわけ ・国や都道府県の防災の取組 	<p>★学習問題とストーリー性のある単元構成の工夫 【仮説1】</p> <p>★個の学びを保障する学習過程と教師のケアの工夫 【仮説2】</p> <p>【知・技①】</p> <p>災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波災害の様子（映像・写真） ・災害年表 ・災害地図 ・日本の地形図 ・東日本大震災の様子（写真・記事）

学習問題

自然災害はどのような原因で起こり、だれがどのような防災の取組を行っているのだろう。

まとめる・いかす	④風水害の被害に関する資料をもとに、風水害が起きるわけや風水害を減らすためにどのような取組が行われているのかを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害による被害 ・風水害が起こるわけ ・国や都道府県の防災の取組 	<p>〈発言・ノート〉</p> <p>★学習問題とストーリー性のある単元構成の工夫 【仮説1】</p> <p>★個の学びを保障する学習過程と教師のケアの工夫 【仮説2】</p> <p>【知・技①】</p> <p>災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台風による被害 ・風水害による被害（写真、資料） ・対策や事業（写真、資料） ・地図帳
	⑤-1 火山や大雪に関する資料をもとに、火山や大雪による被害を減らすためにどのような取組が行われているのかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・噴火や大雪による被害 ・噴火や大雪が起こるわけ ・国や都道府県の防災の取組 	<p>★学習問題とストーリー性のある単元構成の工夫 【仮説1】</p> <p>【知・技②】</p> <p>調べたことを文などにまとめ、自然災害は国土の自然状況などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p> <p>【思・判・表②】</p> <p>自然災害と国土の自然条件との関連を考え、適切に表現している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・噴火、大雪の写真 ・日本の地形図 ・火山の地図 ・噴火や大雪に関する新聞 ・噴火や大雪に関するニュース ・地震、津波、風水害、火山や大雪に関する写真
	⑤-2 学習してきたことを文章に表し、学習問題について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題の結論 		
	<p>学習問題の結論</p> <p>自然災害は地形や気候などと関連して発生している。自然災害から国土の安全を保ち国民生活を守るために、国や都道府県などが様々な対策や事業を進めている。</p>			

6 本時の学習指導（4／5時）

（1）目標

災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解することができる。 【知識及び技能】

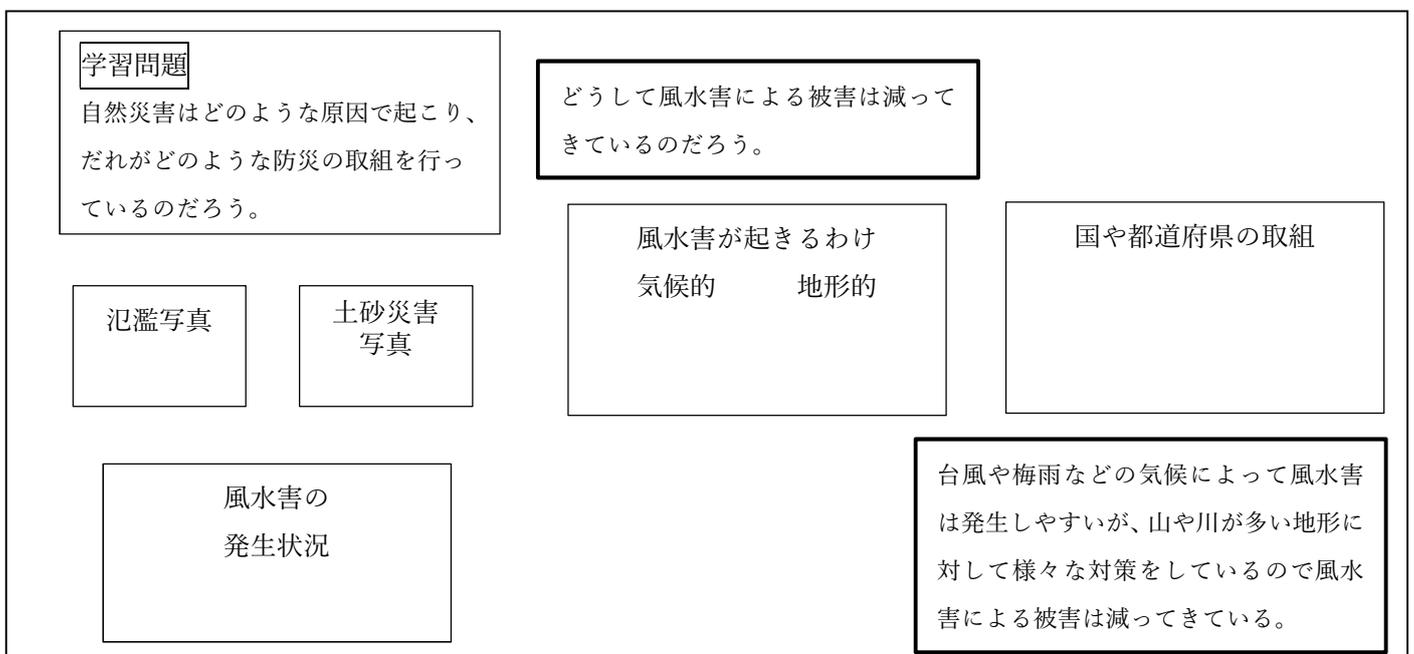
（2）展開

学習活動 ・ 学習内容	・指導上の留意点 ★研究仮説との関わり	【評価】〈方法〉	資料等	時間
1 資料から学習課題をつかむ。				
<ul style="list-style-type: none"> ・風水害の種類（土砂崩れ、氾濫） ・風水害の被害状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の資料を通して、被害の種類や被害の大きさを実感できるようにする。 ・人的・物的被害が減少していること 		<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号による被害（動画） ・土砂災害、氾濫（写真） 	5

<p>課題</p>	<p>を知り、課題意識をもてるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主な水害・土砂災害（死者及び行方不明者数）（資料ア） ・水害面積の推移（資料イ） 	
<p>どうして風水害による被害は減ってきているのだろう。</p>			
<p>2 複数の資料を関連付けて風水害が起きるわけをグループで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風水害が起きるわけ（気候的な要因、地形的な要因） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地震や津波が発生する要因は何でしたか。」などと問い、これまでの学習内容を確認し、資料を読み取る視点（気候的な視点、地形的な視点）に見通しをもてるようにする。 ★学習問題とストーリー性のある単元構成の工夫 【仮説1】 ・資料ウ～オを関連付けることで、風水害は気候的な要因（豪雨、台風、梅雨）と地形的な要因（河川、山地）によって起こることを理解できるようにする。 ・複数の資料を関連付けて読み取ることができていない児童には、既習の地震が起こるわけを想起させ、まずは地形的な要因を理解できるようにする。 ★個の学びを保障する学習過程と教師のケアの工夫 【仮説2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雨、台風に関する資料（資料ウ） ・世界各国の降水量（資料エ） ・各国と日本の河川縦断勾配の比較（資料オ） 	<p>15</p>
<p>評 災害の種類や発生位置や時期、防災対策などについて地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。</p> <p>【知・技①】〈発言・ノート〉</p> <p>⇒ 必要な情報を絞れていない児童には、グループで話題になっている中心資料を確認させ、一つの資料から分かることを考えるよう助言する。</p> <p>⇒ 発生要因について考えられていない児童には、他グループの考えをもとに資料を見る視点を再確認できるように支援する。</p>			
<p>3 調べたことを全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうして日本は風水害が発生しやすいのかわかったことはありますか。」などと問い、世界と比較して降水量が多いこと（気候的な要因） 		<p>4</p>

<p>4 複数の資料を関連付けて国や都道府県などの取組をグループで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国や都道府県の取組 	<p>と短く急な河川が多いこと（地形的な要因）を理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「発生する原因は分かりましたが、国や都道府県では被害をどのようにして減らしてきたと思いますか。」などと問い、風水害が起こるわけと関連付けながら対策を予想できるようにする。 国や都道府県が行っている様々な種類だけでなく、取組のしくみや効果についても調べることで、取組によって被害を減らしているということを実感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 法面処理工事、砂防堰堤、河川防災ステーション、首都圏外郭放水路に関する資料（資料カ） 砂防堰堤のはたらき（資料キ） 首都圏外郭放水路ができる前とできた後の浸水被害の比較（資料ク） 	<p>10</p>
<p>5 国や都道府県などの取組を全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国や都道府県などの様々な取組によって総合的に被害を減らすことができているということに気付けるよう板書で整理する。 		<p>4</p>
<p>6 まとめをする。</p> <p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 風水害、被害という言葉全体を確認し、ノートに書くようにする。各自で考えたあとに全体で共有する。 		<p>5</p>
<p>台風や梅雨などの気候によって風水害は発生しやすいが、山や川が多い地形に対して様々な対策をしているので風水害による被害は減ってきている。</p>			<p>2</p>
<p>7 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 字ひ合いによって字習が深まった児童やグループを教師が取り上げ称賛する。 		<p>2</p>

(3) 板書計画



黒板

①N・H	③ <u>S・R</u>	⑪ <u>A・S</u>	⑬ <u>K・Y</u>	⑲T・O	⑳ <u>K・U</u>
② <u>T・S</u>	④I・M	⑫ <u>K・R</u>	⑭F・H	㉔ <u>S・M</u>	㉖M・Y

⑤ <u>S・S</u>	⑦ <u>M・H</u>	⑮S・K	⑰ <u>K・H</u>	㉗K・A	㉙ <u>O・Y</u>
⑥S・S	⑧M・K	⑮ <u>H・Y</u>	⑱R・K	㉘ <u>T・M</u>	⑳N・T

㉚O・T	㉛ <u>Y・M</u>	㉜N・G	㉝ <u>H・M</u>	㉞O・Y	㉟ <u>K・R</u>
	⑨ <u>S・M</u>	⑩H・Y		㉠K・S	㉡ <u>T・Y</u>

下線は女子